

使用者の声

「殺線虫剤 ネマトリンエース粒剤」の使用感について、インタビュー！
生産者様の声を紹介します。



【かんしょ・しょうが】宮崎県 竹原さん

根菜類を育てるうえで 土の中に潜む病害虫防除は基本。 線虫対策はネマトリンエース粒剤で。

かんしょとしょうがは見えない土の中で育つ。
だから土壌害虫である線虫対策は基本。

宮崎県串間市でかんしょ1.8ha、水稻25a、しょうが10aを栽培している竹原さんは、就農47年、ネマトリンエース粒剤使用歴30年以上になる大ベテランです。

現在もかんしょとしょうがの線虫防除でネマトリンエース粒剤を使用されており、「どちらも根菜類なので、土壌中で品質と収量に悪影響を及ぼす線虫の防除は基本」と話します。串間市大束地区のかんしょ生産者の多くは、ネマトリンエース粒剤を苗床植付前処理するのが一般的で、「かんしょ苗の根に線虫がつくと養分の吸収が悪くなり、伸びが悪くなる。そのため、床土も綺麗にしないとダメです。ネマトリンエース粒剤で苗の生育をしっかり守っておけば、ヒゲ根が綿毛みたいに綺麗で、定植してから表皮も綺麗に育ちます」と、育苗の段階から徹底して線虫を防除しています。

品質と収量で高みを目指すために
防除や肥料調整などの努力は欠かせない。

竹原さんのかんしょは2024年、大束地区のかんしょ品評会で優秀賞を受賞しました。長年の経験と、たゆまぬ努力の賜物です。



「土の中はコントロールが難しい。なので、我々生産者の努力することは、作物を病害虫からしっかり守り、葉の茂り具合を調整することです。窒素が多いとツルに栄養がいきまじ、肝心のイモまで届かなくなるので、気をつけて肥料をあげています。難しいですけどね」と、良い作物づくりのために試行錯誤し続けるお姿は、まさにお手本です。それでも、かんしょの出来がようやくわかる初収穫時はドキドキするといいます。「6月頃に試し掘りするのですが、綺麗なかんしょができてると本当に感動します。その瞬間が一番の喜びですね」。

さらに、去年はしょうがでも標準収量を大幅に上回る6.5トン近い収量をあげ、市から表彰されました。「しょうがは機械化が難しく、収穫も手作業なので面積を広げることは難しいですが、やり方次第で収量はあげられる。別の産地などで収量を多くあげている生産者の話を聞くと励みになる」と向上心は尽きません。そんな竹原さんの高品質な作物づくりを、ネマトリンエース粒剤は今後もしっかりお支えしていきます。

※取材時(2025年1月)における個人の感想をもとに作成しています。

●使用前にラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

ISK 石原バイオサイエンス株式会社

本社 普及部 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号



“使用者の声”は
webでもご覧
いただけます